日経産業新聞 2010年5月31日号 第21面

仕事人秘録

人に恵まれた転職人生 ⑫

知的好奇心 忘れず駆ける

元ライブドア社長
平松 庚三氏

ライブドアを去った平松氏はネット関連企業「小僧ｃｏｍ」の代表取締役に就任した。

ソニー退社後の私の人生を振り返ると、ヘッドハンティングされ、企業再建に尽力することの繰り返しだった。そのせいか、随分前から自ら起業してみたいという願望があった。長年、温めていた構想は「団塊世代の富裕層向けコミュニティで様々なサービスを提供する」ビジネスの立ち上げだった。準備自体は２００５年夏から４人くらいのメンバーで始め、実は登記も06年に済ませていた。

だが、ライブドアの件で小僧ｃｏｍ社長まで兼務できなくなった。代わりに社長職を務めてくれる人材を探さなければならない。そこで、私が会長を務めているソニーＯＢ会（ＳＯＢＡ）経由で人選を進めた。

立場上、ソニー本社での研修に講師として招かれたことも多く、ソニー内の知己を頼ったことも良かったのだろう。最終的に白羽の矢を立てたのは、当時まだ30歳代半ばでソニー法務部の課長を務めていた藤田憲彦氏だった。

息子との議論が非常に心地良い（長男の圭氏と）

藤田氏を社長に据え、事業がようやく軌道に乗り始めた08年、同氏から驚くべき告白をされた。なんと「代議士を目指したい」という。民主党から既に公認も得ていると聞き、ショックだったが、有能な彼を国政に送り出すべく、全力で応援することにした。

09年の衆院選では、東京の大田区を中心とする東京４区を藤田氏と一緒に選挙カーで駆け回った。衆議院議員となった同氏が日本に山積する政策課題を一つでも多く解決できるよう、今後も後援会長として微力ながら支えていく所存だ。

平松氏は藤田氏の後任に長男の平松圭氏を起用した。

息子はカリフォルニア州立大を出た後、ＧＭＯインターネットという企業に勤務していた関係でＩＴ（情報技術）やウェブマーケティングに精通している。今後の最新技術の展望や経営方針を巡り、親子で意見を戦わせているが、私にとって楽しい時間の一つだ。

やりたいことはまだある。欧米に長く滞在した経験から農業に前から関心があった。子供時代、植物を育てるのが好きだったこともあり、群馬県月夜野町（現みなかみ町）で毎週末に農作業をやり始めた。09年春、築約１８０年の古民家を８００坪の土地とセットで購入。周囲の農家の方々を師匠に農業を一から勉強している。

宇宙旅行にも行ってみたい。無重力を体験する瞬間を思うと子供のようにワクワクする。いつまでも知的好奇心を忘れない限り、決して老いない。そう信じて私はこれからも走り続ける。（聞き手は西根千博）

＝この項おわり

次回は玉子屋会長の菅原勇継氏